



学びの秋

2学期も終盤に差し掛かり、それぞれの学年で各教科の学習活動を充実させるため様々なことに取り組んでいます。

学習活動の内容によってインターネットを利用した情報や動画を活用しています。もちろんこれらを使った学習活動で、思考を働かせたり情報を整理したりすることで学習を深めています。合わせて実際の物を体験する、触れる、感じるといった五感を刺激する本物に触れることも大切にしたいと考えて学習活動を進めています。本校では大変ありがたいことに学校運営協議会のお力添えもあり、まち探検やまち歩き、ひょうたん池への遠足、相撲フェスティバルといった生きた学習をさせていただいております。今回は地域に根差した学習だけでなく、外部の方々のご協力により行っている学習について紹介いたします。

その1 食育学習 5年生

3つの食品群とバランスよく食べることで健康な体を作っていくことを学びました。

その2 八幡平の魅力 6年生



【6年生：市の観光に学ぶ】

観光を通して八幡平市を知り、八幡平市への思いや自分たちへの期待について考えを深めました。

【5年生：食育学習】



その3 社会科見学 3年生

社会科で学習している、消防署、警察、地域の食品工場、市立博物館を見学してきました。

その4 社会科見学 5年生



【5年生：中央卸売市場にて】

社会科で学習している、市場の仕組みを見学しました。合わせてテレビ岩手も見学してきました。

どれも生きた学びの場となりました。



【3年生：食品工場にて】

市内インターネット調査から生活習慣を考える

市内小中学生とその保護者を対象に今年度実施した、インターネットに関する調査の一部を学級懇談の際の資料として配付いたしました。ここでは、その調査の中からインターネット利用時間の結果を通して生活習慣、特に睡眠について考えたいと思います。

市内児童生徒846名の半数近くが、平日1日当たり2時間以上インターネットを利用しています。学校での生活や放課後の時間を差し引くと、この2時間という数字をどのようにお考えでしょうか。これでは他のことができなくなってしまうのは私だけでしょうか。すると、当然ほかの時間がなくなるわけで、睡眠が遅くなりそれに伴って起床が遅くなるという悪循環も考えられます。「寝る子は育つ」と言いますが、「子どもの睡眠」について、大学の研究や専門機関によって報告されているデータで興味深いものがありましたので紹介します。都内近郊の幼稚園、保育所の5歳児クラスに通う幼児222名の2週間の睡眠記録と養育者へのアンケート、三角形模写を課す調査が行われました。三角形の模写は通常5歳時の課題としては妥当なレベルであると考えられています。調査してみると、三角形を模写できた幼児は184名、描けなかった幼児は34名という結果に。その後、睡眠・覚醒リズムの正常・乱れと、三角形模写可能・不可能との関連をみるための解析が行われた結果、睡眠・覚醒のリズムが乱れている幼児は、正常な幼児と比べて、三角形模写が不可能であるリスクが5.9倍であることがわかりました。子どもの頃の睡眠は、その子の心や身体、脳の成長に直結します。楽しく意義のあるスマホ等ではありますが、自分の生活時間をしっかりと管理できるよう育てていきたいものです。自己管理能力を育み、自分の力を伸ばしていってほしいと考えています。



【読み聞かせの様子】

お話の風キャラバン

10月31日（木）お話の風キャラバンの読み聞かせをしていただきました。それぞれの学年に合わせていただき、学団ごとに行っていただきました。子ども達の興味が湧くよう、たくさんのお話を用意していただきました。様子がはっきりとわかる挿絵やじっくりと朗読で聞かせるお話に、子ども達はすっかりお話の世界に引き込まれていました。

おめでとう！

少年少女の詩江間章子賞

江間章子賞	詩乃さん	作品名「気もちの天気」
入選	瞭さん	作品名「よこづな」
	咲帆さん	作品名「私の願い」
	光さん	作品名「ぼくが文ぼう具だったら」

市社会福祉協議会標語

最優秀賞 歩由さん

平和ポスターコンテスト

優秀賞 優美音さん

市読書感想文コンクール

特選 寿音さん

入選 詩乃さん かおりさん 芽生さん

佳作 柑南さん 万葉さん



ある日の出来事から

☆ ある朝のことです。1年生の女の子2人が、押しボタン信号のところで「校長先生、ごみが落ちていました。」と拾ってきたのでした。その子たちは、地区のごみ拾いにも行きたいけど、「朝早く起きて起きれない。」と言っていました。そのような活動に気持ちが向いていることを感心していました。拾ってきたごみを置いて行ったのですが、その後5年生の女の子が来て、その置いてあるゴミが気になったようなので、そこにある訳を話して「どうする？」と尋ねました。すると、「自分なら〇〇のごみ箱に捨てます。」思わず「さすがです！」と伝え、その子がごみを捨ててくれました。誰かのために自分の手を使う子ども達。本当に素晴らしい考えと、行動です。